

前月末の子どもの姿

●個々の発達に応じた運動機能を使い、自分で移動することを楽しむ。また、外への関心が高まっている。 ●保育者に甘えたり、触れ合い遊びを喜んで信頼関係が深まり、情緒が安定し探索行動を楽しむ姿も見られる。

ねらい

●依存的欲求を十分に受け止めてもらい、楽しく触れ合いを深めながら信頼感を抱き、情緒を安定させる。 ●発達に応じた運動遊びで、体を動かして遊ぶことを十分に楽しむ。

安全・健康

●乳児室のテーブル、床、玩具などは毎日消毒し、清潔に保つことで感染症を予防する。 ●個々の発達に応じた遊びを提供する中で危険を予測し、危険を未然に防げるような安全な保育環境を整える。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<p>●生理的欲求を十分に満たし、健康や体調、機嫌について留意され、生活のリズムを整える。</p> <p>●保育者の愛のある丁寧な関わりの中で、情緒を安定させる。</p> <p>●生理的欲求を満たし、健康や体調、機嫌に留意してもらい、生活リズムを整える。</p> <p>●生活（授乳量・睡眠）の様子や、リズム、癖を把握してもらい、安心してミルクを飲み、気持ち良く眠る。</p>	<p>●職員全員が連絡帳に目を通すことができるように見やすい場所に置いておく。</p> <p>●過ごしやすい食事スペース、睡眠スペース、遊びスペースをつくり、生活や遊びが十分にできるような環境を設定する。</p> <p>●ゆったりとした音楽を流し、安心して眠れる部屋の環境をつくる。</p> <p>●授乳・睡眠・遊びスペースをつくり、落ち着いて生活したり、ゆったり遊べる環境を作る。</p>	<p>●鼻水や咳が出たり、体調を崩したりする子が増える。</p> <p>●体力がついて午前睡がなくても過ぎせるようになる。</p> <p>●泣いて保育者の後追いをする。</p> <p>●手を広げて抱っこを求める。</p> <p>●自ら保育者に近付き、抱っこを求め、笑顔を見せる。</p> <p>●授乳しても飲まなかったり、寝かそうとしてもなかなか寝付けず泣き続ける。</p>	<p>●家庭での睡眠時間を把握し、個々に応じて午前睡の時間を確保する。眠れない場合は、好きな遊びを楽しみ、情緒の安定を図った後、ゆったりと睡眠に入れるようにする。</p> <p>●体調が悪い子は戸外に出ることを控え、風邪の悪化を防ぐ。</p> <p>●目を見て優しく「○○ちゃん」と名前を呼ぶことを大切にし、「かわいいな」という気持ちで抱いたり、膝に乗せたりして触れ合い遊びを楽しみ、笑いを共有する。</p>
教育	<p>●ずり這い、はいはいや、つかまり立ち、つたい歩きをし、個々の発達に見合った活動を十分に楽しむ。</p> <p>●戸外散歩を喜び、春の自然を見たり、触れたりする。</p> <p>●歌を聞いたり、手遊びを見ながら指差しをしたり、喃語を話すことを楽しんだりする。</p> <p>●様々な食材や、形状に慣れ、食事の時間が楽しい時間となるようにする。</p>	<p>●マットやウレタン積み木など、転倒しても危険がないような用具を準備する。</p> <p>●春の自然を手にとって触れる機会を大切にする。</p> <p>●子どもたちの興味をひくようなお話を準備する。</p> <p>●手づかみで食べる姿は自分で食べたいという意欲の表れとして受け止め、汚れてもいようにマットを敷く。</p>	<p>●つかまり立ちをした際、転倒する。</p> <p>●花や草を渡すと、手に取り口に入れたり、握ったり、つぶしたり、ちぎったりする。</p> <p>●指差しや喃語により、保育者に何かを伝えようとする。</p> <p>●歌を歌うと泣きやみ、保育者の顔をじっと見つめる。</p> <p>●離乳食を食べて満足し、ミルクの量が減る。</p>	<p>●ウレタン積み木やマットで高低差をつけた道をつくり、登り降りするなど体を使って遊ぶことを楽しめるようにする。</p> <p>●戸外に出た際は、草花や生き物に触れ、見せながら「きれいだね」などと言葉をかけ、身の回りの自然を感じ、楽しめるようにする。</p> <p>●スティック状の物や、つかみやすい物を準備し、自分で食べようとする意欲を引き出す。</p>

職員との連携

●受け入れ時は、優しい笑顔であいさつをし、抱っこで受け入れをする。 ●保育内容や個々の様子を把握し、子どもに応じた遊びや生活ができるようにする。

家庭との連携

●疲れが出やすい時期であることを話し、子どもの体調を注意して見てもらうよう伝える。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

--	--	--